



JEG ニュースレター 129号

www.jegch.jimdo.com

2012年10月3日発行

小さな証

確信のもてる信仰を神から頂きたいと願って化学者の村上幸夫兄が召される前に見たものとは、夫人の証。

洗礼

スイスJEGに久しぶりに洗礼者が与えられ、音楽家・澤田恵さんの命が救われました。

良きサマリヤ人

マラリアで命を落とす子どもに蚊帳を贈って助けようと”良きサマリヤ人のイベント”が開かれました。

お別れ会

スイス教会で二年半前に洗礼を受け、奏楽の奉仕をしてくださった岩佐姉の送別会をしました。



小さな祈り

主のおことばとわたしたちの現実とは大きな隔たりがあります。主のおことばに従うために自分の負うべき十字架を見出させてください。

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。 ガラテヤ 2:20



2012年9月23日に執り行われた澤田恵さんの洗礼式。ひとつのかけがえのない生命が救われたことに、63名の礼拝出席者の中には、大きな喜びと感動の渦が広がりました。

ちいさな証

夫が召されて

村上公子

日本キリスト教団大阪のぞみ教会会員



私と夫（幸夫）は2000年からスイス日本語福音キリスト教会の今村（娘夫婦）の家族と共にヨーロッパキリスト者の集いに毎年参加していました。その夫が2011年9月27日に78歳で天に召されました。その年の初め1月末に私の検査のためについてきた夫

に、かつて主治医だったその医師から、2年間も検診を受けていないのでダイナミックCTを撮るように勧められ、じゃあついでに、ということで撮った画像で、肝臓と胆管に癌が見つかり、あと半年～1年の命と告知されました。

化学者だった夫は70歳で洗礼を受け、クリスチャンになりましたが、洗礼を受けた動機は残り少ない人生を、妻と同じ方向で共に歩み、また2人で一緒に天国に行きたい、ということでした。夫は熱心に聖書の学びや教会の奉仕をしながらも、神様のことを心の内でただ信じるだけでいいのか？目に見えない、証明できない事柄に対して、もっと確信のもてる信仰を神様から頂きたいと葛藤していました。

辛い痛みも苦しい様子もなく、召される1ヶ月前まで、誰の目からもそんな状態とは知られないくらい普段通りの生活をしていました。この様な生活がずっと続くかのように思われるほど平安に、2人の生活が多くの皆様のお祈りによって神様に支えられていました。

最後の1週間は大阪の淀川キリスト教病院のホスピスに入りました。医師から家族の皆を呼ぶように言われて、スイスから娘の葉子が来た日に夫の様子が何か困惑しているような感じになったので、娘が枕元に駆け寄り「お父さん！苦しいの？」と聞くと夫は両手を高く上げて「天国に昇っていくようだ！天国に昇っていく！」と大声で叫びました。

それまで何度か見舞ってくれ、牧師をしている息子は来

るたびに「ハバクク書2章2～4」を夫の枕元で朗読していました。私はその時は何の事を言っているのかさっぱりわかりませんでした。

2、主は私に答えていわれた。「幻を書き記せ。走りながらも読めるように、板の上にはっきりと記せ。」
3、定められた時のためにもう1つの幻があるからだ。それは、終わりの時に向かって急ぐ。人を欺くことはない。たとえ遅くなくても待っておれ。それは必ず来る。遅れることはない。」
4、見よ、高慢な者を、彼の心は正しくありえない。しかし、神に従う人は信仰によっていきる。」

後になって私はハバクク書をすべて静かに読んだ時に、神様の御言葉の真実と深い慈しみに唯々感謝の涙がこぼれました。告知を受けてからの主人の祈りはそれまでと変わり、静かに神様と対話しているようでした。主人の最後の息まで見ていた義理の娘も、看護師さんも「あのように死ぬるのなら死は怖くない。本人が天国に昇っていくと言ったのだから。」と明るく笑って言いました。

「神様のなさることは時にかなって美しい。」アーメン

☆村上公子姉は、スイス教会会員・今村葉子姉のお母様で、これまでにご夫婦で幾度もスイス教会からヨーロッパ・キリスト者の集いに参加されたほか、スイス教会においても深いお交わりをいただきました。



村上幸夫兄がこよなく愛したスイス・アッペンツェル（左）六甲の山（右）



1、9月9日(日)の主日礼拝は帰国中のオーニング・マックス宣教師によって”収穫は多いが、働き手は少ない”をテーマに、自らドイツ語に通訳して、マタイ9:35-38から解き明かしをして下さいました。

また、9月18日(火)の午後のチューリッヒ、ヴァイランド家での家庭集会にはオーニング・玲子宣教師ともども出席をされ、日本での働きを紹介し、祈りの課題を交換し、ともに祈る時を持たれました。ご夫妻は10月1日に宣教地東京において任務につくためスイスを後にされました。スイス教会での御奉仕に感謝するとともに、これからの働きに主が必要な知恵と力と愛をお与え下さるようお祈りします。

2、9月9日(日) 礼拝後、マラリヤで命を落とすアフリカの子供達に蚊帳(一枚5フラン)を送ろうと、ゲルスタ牧師家の中庭でCS主催の**良きサマリヤ人のイベント**が開かれました。5フランのゲーム参加券で設けられた数々のゲームに興じる子どもと大人の歓声がこだましました。240フランの売り上げがあり、48枚の蚊帳がこのプロジェクトを推進するワールドビジョンを通じて、アフリカの子ども達に贈られる事になりました。みなさまのご協力を心から感謝します。



9月9日 良きサマリヤ人のイベントのスナップ

3、ヴィンタートゥア在住の若きヴィオラ奏者、澤田恵さん。留学のためスイスに来られ、韓国人のクリスチャン音楽家に出会い、彼らの通う韓国教会を通じて、日本語教会の存在を知りました。



そして、ゲルスタ夫妻の元での聖書の学びと教会でのクリスチャンとの交わりを通じて、イエス様以外に救い主はいないとの確信を持ち9月23日(日)洗礼を受けられました。スイス教会にとっては、前回の中村兄の洗礼から実に2年4ヶ月ぶりの洗礼式に、会堂は喜びで満たされました。澤田恵姉のまったく新しい人生に主の導きと豊かな祝福がありますように、その賜物が主の栄光の為に用いられますようにお祈りします。



その後、愛餐会においてスイスJEGユースバンドによる”君は愛される為に生まれた”などの賛美、そして、澤田姉の韓国人友人の音楽家4人による美しい室内楽で澤田姉の受洗をお祝いしました。



4、9月23日、スイス教会で最後の奏楽の御奉仕をされた岩佐智子姉がバーゼルでの4年間の学びを終えて、9月30日、故郷大阪に帰られました。

岩佐姉は9月14日Stäfaのオルガンフェスティバルで演奏され、スイスでの学びの集大成にふさわしく全力を込めてエネルギーに、バロックからロマン派、現代の曲を演奏されました。ここでも神様が彼女を祝福して下さいました。スイス教会で洗礼を受けられた岩佐姉ですが、主が姉に与えられた賜物が主の栄光の為に用いられ、日本においても教会に繋がり、信仰生活が守られますようお祈りします。

5、沼尾信、ミュリエル姉に、9月17日午前0時35分、可愛い女の子”小百合”ちゃんが授けられました。母子ともに元気とのこと。おめでとうございます！



6、シグリスト・ワルター、ロッティ元宣教師の次男ベアト兄が、9月22日、トゥーン近郊シュテフィスブルグでミュリエルさんと結婚式をあげられました。式には、出張でドイツに滞在中のウルス兄も駆けつけられました。ベアト兄らは10月末までオーストラリアを新婚旅行した後、バーゼルランドに居を移し、生活を始められます。お二人の結婚生活に主の祝福と導きがありますように！

7、半年前からスイス教会に来られている阿部勝行兄が、7月29日、日本基督教団佐賀教会の鈴木重正牧師のもとで洗礼を受けられました。おめでとうございます。先に受洗された匠姉と良きクリスチャンホームを築かれますようにお祈りします。

8、9月22日サンクトガレン市において開かれた東スイスネットわーく(日本人会)主催による福島の子どものためのチャリティーイベント**JAPANATAG**(日本の日) http://www.youtube.com/watch?v=boFk1vF_cxEでは、スイスJEGのブースに6人の奉仕者が与えられ、600フランの収益を上げることが出来ました。このイベントで集められた義損金5725フラン(約47万円)は、福島の子どもと親を支援する”福島県キリスト教子ども保養プロジェクト”<http://www.fukushimahopeproject.com/>(代表の木田恵嗣牧師は田辺先生の神学校の後輩)に全額贈られます。一般の日本人会からキリスト教団体に献金されるのは極めて異例です。感謝！



9、9月27日に帰国された今村泰典兄が、東京、大阪、新潟、大分、福岡などで10月半ばまでピウエラ・リサイタルを開かれます。古楽演奏者の第一人者として世界的に活躍する今村兄のコンサートが各地で祝福されます様に！詳しくはHPwww.yasunoriimamura.com お問い合わせ：yimamura1019@gmail.com

10、オーニング宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メールマガジン187/188号、吉村美穂NL66号、井野葉由美メルマガ91号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、岡田牧師夫妻ベルギー宣教支援会会報、夜越山祈りの家月報が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。

日出ずる国から

あなたは一人じゃない

宮城県はオアシスチャペル
利府キリスト教会の
松田牧人牧師から



スイス教会のみなさまへ

ヨーロッパ・キリスト者の集いにて捧げられた尊い献金が工藤篤子様から入金

いただきました。東北を覚え、祈り、支えくださっていること、また、菊地神学生へ継続的なサポートをいただいておりますことも心から感謝します。皆様からの心温まるご支援は、いまだ切実な必要を抱えている東北の復興の為に用いさせていただきます。

オアシスライフ・ケア (OLC) の活動は、時の経過とともに働きの形を少しずつ変えながら前進しています。被災地の抱えている様々な課題の一つに「子どもたちへのケア」があります。現地の人たちの中にはまだまだ心にゆとりのない方も多く「どうしても子どもたちまで手が回らない」という声も聞かれます。そこで7月末より8月上旬の1週間、南三陸町において“Kids JOYnt” (キッズジョイント) という教育支援プログラムを行いました。

教師を派遣して夏休みの宿題をサポートするというアイデアから、最終的



には子どもたちも派遣して二つの地域の子どもたち同士をつなぐという企画まで発展しました。保護者のみなさんや地域の方々にも大変喜んでいただくことができましたので、今後も定期的に行うしていきたいと考えています。

また、内職支援の働き(SHIZU革)や養殖漁業復興支援も継続しており、新製品

やリニューアル製品の販売をスタートしたところです。先日、京都で行われた東日本大震災復興イベント「洛都祭」(らくとまつり)にも出店させていただき、たくさんの方々から支援していただきました。私たちはこれらの働きを通じて「あなたはひとりじゃない」というメッセージを届け続けます。

これからも、ご支援とお祈りをよろしく願いいたします。オアシスライフ・ケアのホームページ oasislifecare.org



新大陸から

回心したリターナー

米国はミシガン州デトロイトの
三上洋輔兄から



スイスの皆さん、こんにちは。三上洋輔と申します。先のオランダでの集いに参加させて頂き、旧友との再会、そして新友との出会いを持ってました

ことをとても主に感謝しています。

私は1990-1994年にオランダで企業の駐在員として滞在し、そこでの体験が今もって私に大きな意味を与えています。その前の1986-1990年はスウェーデンで生活しました。会社を2年半まえに退職し、現在Japanese Christian Fellowship Network (JCFN) という帰国者ミニストリーの団体に関わって9年目です。

今、来る11月22-25日静岡県掛川市にありますヤマハ・リゾートつま恋で開催のAll Nations Returnees Conference 2012(ANRC12)の準備に追われています。皆さまにこのANRC12のことをお祈りに覚えて頂ければとても嬉しいです。

さて、ミシガン州のことですが、2009年度外務省統計では国外滞在3ヶ月以上(永住者含む)の邦人は131万人。ミシガン州(人口989万人)に

あっては在留邦人1万人で、自動車産業にかかわる企業が多いことで知られるデトロイト及び周辺で約7-8千人と言われ、州内で日本と姉妹都市を結んでいる事例は28あり、州としては滋賀県と結ばれています。こちらでは教会が外国人向け英語コース(ESL)や子供のケアなどを提供しているのをよく見ます。



そして、当地での生活ではじめて教会に足を運ばれる方々が結構いて、中には洗礼を受けて帰国される方々がおられるのですが、日本の青年女子教育に大きな影響を与えた木村熊二と大儀見元一郎は、明治にミシガン州ホーランドのホープカレッジに学び、そこで回心した帰国者<リターナー>です。

彼らは元サムライで、勝海舟に勧められて渡米。同カレッジ初代学長フェリックス師とのNYでの出会いが縁でホーランドに来て、ここで学び、そして信仰へと導かれて8年間を過ごしました。

1879年に卒業する時に、大儀見元一郎は卒業生代表として英語と日本語とラテン語でスピーチをしたそうです。木村熊二は後に日本のYMCA創設に大きく関わり、また島崎藤村に洗礼を受けたと言われています。

彼ら二人が8年間の在学中に回った州内のいろんな街に現在日本語礼拝や集会が存在しています。もちろん当時彼らが今のような形で州内に日本語礼拝や集会が起こされているのを見てはいませんが、不思議に彼らの足跡に符号するかのよう存在しています。



そして、普段はそれぞれ散らばっている日本人クリスチャンたちが、年に一度ミシガン・バ

イブル・キャンプをもってお互いに励まし、交わりの場もっています。今年も8月に第15回目のキャンプを祝福の内にもつことができました。スイスと違ってミシガン州は山らしきものがなく、比較的平坦ですが、その地は、今、秋のすばらしい装いでおわれています。



ヨーロッパの

日本語教(集)会から

してくださった主に感謝し、御名を褒め称えます。



3年後はプラハで会いましょう

チェコ・プラハ日本語礼拝は

黒田閑恵姉から

です。兄弟姉妹のお祈りをぜひお願いいたします。

プラハは美しい古都です。1968年の「プラハの春」をご記憶の方には、この地でのキリスト者の集いに格別な意味を感じとられるのではないのでしょうか。

主は全ての時をご存知なのだと改めて感謝をささげ、お祈りいたします。兄弟姉妹の上に豊かな主の祝福がありますように。

ドイツの教会にホームステイ
英国ウィンブルドン日本語礼拝は
清水勝俊兄から



8月24日～27日の3泊4日で、私どものウィンブルドンにある日本語教会から、大人14名、子ども2名

の16名でドイツメッケンハイムの教会にホームステイさせていただきました。

このメッケンハイムの教会は、私たちの教会の牧師夫人のレナーテさんの母教会で、教会のみなさんのご好意で実現しました。メッケンハイムは、ドイツ南部の小さな田舎町ですが、豊かな自然に恵まれ、特にぶどう畑が多く、地元のワインナリーや、ちょうど開催されていたワインフェスティバルを訪れたり、当地の恵みを楽しみました。訪問した初日の夜は、教会のみなさんがバーベキューパーティーを開いて歓迎してくださり、また、その後のキャンプファイヤーでは、ブレイズソングを大合唱し、日独それぞれの言葉でお互いのために祈り合い、すばらしいひと時でした。



礼拝も日本語とドイツ語で、賛美を捧げ、メッセージもいただきました。何より、この教会から、日本の救霊のために献身くださったレナーテ姉妹とその働きを支えるメッケンハイムの教会の方々に感謝し、親交を深めました。日本、イギリス、ドイツと国は違っても、主にある兄弟姉妹として、豊かな交わりが与えられ、そして、これからも、それぞれの地で、神の御国のために労していくことを祈り、励まし合いました。神の家族として、こんなにも豊かな恵みを与え、祝福

夏中楽しませてもらったつばめも旅だし、ついに秋になるボヘミアから1年以上ぶりのお便りです。

プラハ日本語礼拝は、相変わらずの小さな家族で仲良くやっています。孫牧師は、礼拝時に、ときに2人であっても100人いるのと同じ変わらぬ信仰の誠実さで説教されています。賛美演奏には恵まれ、孫先生のところのお兄ちゃん、無口なヨハン君がバイオリン、弟ナダン君のチェロ、ミン牧師夫人のピアノと美しい声、そして時々ゲストの留学生の笛やチェロが礼拝堂に響き渡ります。

プラハから西へ約170Kmの私の住む村では、手作りバザー、持ち寄りケーキのあるカフェが開かれ、もう1つの方では、演奏グループ、演劇グループも来て、夜まで催しものがあり、テントの寝泊りもあり、で夏休みの合宿のようでもありました。

教会の建物が修復されたとは言え、社会主義時代の教会離れがまだ続くチェコでは、集まる人々の意識は必ずしも信仰第一ではないかもしれません。それでも、教会という中心があればこそこの行事でしょう。その建物をきれいにし、人々が集まり、飲食を共にし、音楽を、劇を楽しむ姿を神様は見てくださっている、そして礼拝を目的に集まる時を待っておられると、私は話を組み立ててしまうのですが、皆さん、そう思われませんか。



そして、3年後の2015年、ヨーロッパ・キリスト者の集いはプラハで開かれることになりました。東欧では初めてでしょうか。以前、プラハの教会で「いつかやりたいね」と、お茶の時間に話していたことが現実になりました。まだ現実感がありませんが。小さな群れであり私達にはたくさんの助け手が必要

鈴木伸治牧師を迎えて

バルセロナは日本語で聖書を読む会
下山由紀子姉から

スイス教会の皆様、こんにちは！ようやく秋を迎えたバルセロナ集会では9月22日、集会ピアニストのご両親であられる鈴木伸治牧師とスミ夫人をお迎えしての礼拝となりました。

この集会には、春に女の子を出産されたまどかさんが、産後初めて愛くるしい美波ちゃんを連れて参加してくださいました。えりこさんも1年前に生まれた第二子ニコ君を連れて1年半ぶりにお見えになり、皆を湧かせてくれました。



また、初めて集会に参加してくださいました駐在員のご夫妻と羊子姉にピアノを習い始めたNil君親子のお姿もありました。

礼拝後の交流会では会員の家族も合流してスミ婦人のお誕生日も

お祝いするなど、総勢14人(+子供3人)が集まってとても盛り上がりました。集会以外でも、ブリュッセルから岡田牧師ご夫妻や、オランダの集いの世話人をなさった西迫さんご夫妻を観光でバルセロナにお迎えしたり、下山一家もマドリッドの吉川さんを訪問させていただいたりして、集いで出会った貴重な友人網はさらに絆を深め、恵み豊かな交わりと与っています。

皆様のお祈りのお陰と心から感謝しています。私達も、成長し続けておられるスイス日本語教会のためにお祈りしています！

